

第72回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」山岳競技報告

10月1日～3日、愛媛県西条市の石鎚クライミングパーク S A I J O にて第72回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」の山岳競技が開催された。

今回、成女の茨城県の野口、小林がブロック大会にて敗退し未出場。また、成男予選において、2017世界ボルダリングランキング2位の楢崎智亜のいる栃木が敗退した。チーム戦の難しさもあるが、予選からいろいろ波乱のある国体となった。決勝で世界トップの選手が見られない寂しさはあったが、各県チームの戦いに盛り上がった。

＜成年男子＞

リードでは、福岡県の緒方良行が高度31+の完登に迫る登りで個人1位となったが、愛媛県の清水裕登が個人2位・徳永潤一が個人5位とバランスの取れた成績で優勝を勝ち取った。そして、大阪の原田海も高度31と好成績で大阪を2位に導いた。一方、世界大会で表彰台にも立っている埼玉県のは永敬一郎・波田悠貴には注目が集まったが、壁上部の傾斜が増し始めるボリュームから細かいホールドを処理する部分でミスし3位にとどまった。ここを通過するかしないかが1位、2位との分かれ道となった。

ボルダリングは、高グレードの課題が多く完登率が37.5%と低かった。3完登で大阪と和歌山が並んだがアテンプトで大阪1位、和歌山2位となった。そんな中で、第3課題を一人だけ完登した福岡県の緒方良行は、8アテンプトかかったが選手としての意地が感じられた。

＜成年女子＞

リードでは、北海道の小武芽生が高度39+で個人1位となったが、福井県の尾上彩が高度38+、廣重幸紀も高度38+とそれに続く見事な登りで、2人とも個人2位の成績、チームとして優勝を勝ち取った。

ボルダリングは、男子と違い完登率70%と観戦者も楽しめた内容であった。山口県の小田桃花が全完で個人1位となる。尾上彩も全完だったがアテンプト差で2位。そして廣重は1完登にとどまるが、チームの完登数で山口県をかわし優勝を果たす。リード、ボルダリングでの優勝は来年開催地の福井県として素晴らしいお土産となった。一方、野中生萌は第2課題を一撃するなどさすがと感じる部分もあったが、世界戦の疲れか全体的にはいつもの冴えが感じられなかった。



＜少年男子＞

リードは、9月に開催された世界ユース選手権で活躍した栃木県の楢崎明智が高度34+で個人1位。埼玉県の本間大晴も高度34+を記録するが、栃木のもう一人の選手茂呂居岳人が高度24で6位に食い込み栃木県が優勝した。

ボルダリングでは、厳しい課題が多く1課題目、4課題目は完登者なし。個人の成績としては第2課題、第3課題を完登した栃木の楢崎明智が1位、茨城県の今泉結太2位となったが、第2課題を2人が完登した埼玉が優勝した。特に、埼玉の中村颯人が第2課題を1撃完登。これが勝敗を分けた。

＜少年女子＞

リードでは、中間部(高度18)でフォールする選手が50%と全体的にテクニックを要するルートを感じた。やはり、世界ユースで活躍した岩手県の伊藤ふたばが高度35+で断トツの個人1位となった。上部のボリュームから終了点へ左にトラバースする部分でロープが足に絡んだがそれがなければ、完登していたかも知れない。

優勝は、大阪の森脇ほの佳が高度29+で伊藤に次ぐ2位、大塚優希が23+で7位となったが総合で勝

